

# アートプロジェクト

## Tele-Interference Counterpoints (in Chiba)

市民参加のかたち：材料提供・展示鑑賞

本プロジェクトは、廃棄予定の蛍光灯を回収・整備し、街を照らすインスタレーションとして再生する取り組みである。蛍光灯の「2027年製造・輸出入禁止」を背景に、今しかできない表現として企画された。市内各所から蛍光灯を集める「回収フェーズ」と、それらを使った明滅する光の展示を行う「展示フェーズ」で構成される。展示は屋外または外から見える屋内で夜間点灯による演出を行う。光のゆらぎは懐かしさやペーソスを想起させる一方、集積することで新たな表情を生む。展示と並行し、各フェーズの記録や素材にまつわる記憶・経験の共有も重視。蛍光灯を通じて、個人と地域、消費と循環、記憶と未来をつなぐ美術の役割を探る。展示時は常時1名の見守り体制が必要。本企画を通して、エシカルな消費やものの循環に対する意識を高める契機となることを目指す。

### 上野悠河

現代音楽への関心やオーケストラの打楽器に所属していた経験から、1960～70年代の美術史研究を経て、現代における人間や「もの」の複雑な振る舞い、関係性、有限性に焦点を当てた作品を発表している。レディ・メイドの道具や機材、その機能を実際に利用し組み合わせたサウンド・アートやインスタレーション・アートを軸に表現しているほか、ミュージシャン「Mus'c」（ムスク）としても活動。主な展示に、個展「ものたちは、歌い、蔑み、愛し合った」（千葉市民ギャラリー・いなげ）、「SICF23 EXHIBITION部門 受賞者展」（スパイラル）、「ZOU-NO-HANA FUTURE SCAPES PROJECT 2022」（象の鼻テラス）など。「ClafT（中央線芸術祭）」に2021年から参加・出展。また「SICF23」大巻伸嗣賞、「第二回ISAC国際作曲コンテスト」Special Prize (Special Mentioned)、「島村楽器 録れコン2022」グランプリなど、展示／受賞多数。



参考作品「Tele-Interference Counterpoints (Helix)」2024, 千葉市民ギャラリー・いなげ／千葉